地質ニュース454号，45頁，1992年6月
Chishitsu News no. 454, p. 45, June, 1992

隼人町の大隅石(オースミライト)

大隅石(オースミライト)は，日本で第7番目に発見された新鉱物です．大隅石の発見の由来は，昭和17年のころ益富寿之助先生が，垂水市早崎地区の山手斜面をつくる灰色の火山岩の晶洞に六角形の結晶鉱物を見出し，菫青石によく似ているがその性質は明らかに違うことを見抜いたのでした．

その後，この地区を詳しく調査された，森本良平・湊秀雄の両先生によって，下から上へ凝灰岩層，玄武岩質の溶岩，およびその上の5枚の斜長流紋岩と浮石(軽石)層が重なることが明らかとなり，菫青石によく似た鉱物は，この5枚の斜長流紋岩に含まれることがわかりました．やがてこの鉱物は，都城秋穂先生の調べで，世界中のどこにもない新鉱物であることが判明し，大隅石と名付けられました．

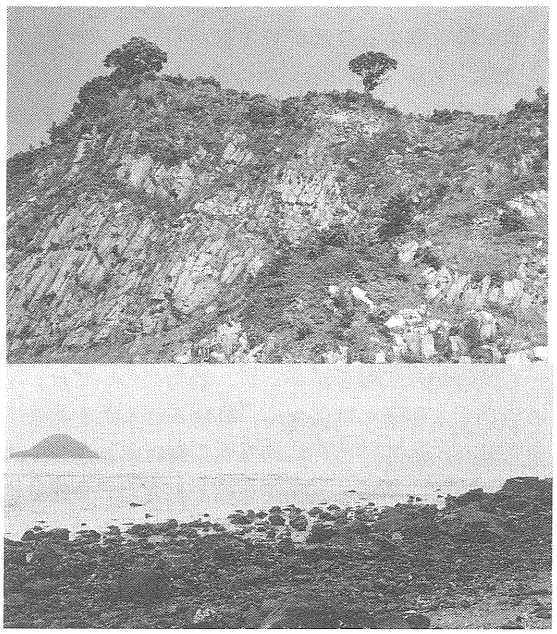

写真1　大隅石が産出する隼人町清水の採石場の流紋岩露頭(上)と海岸(下)．手前の転石が流紋岩の転石，遠方に桜島火山が霞む．

その後，長い間県内での大隅石の発見の記録は見当たりませんが，1971年県の採石場調査で，姶良郡隼人町清水(きよみず)の採石場(写真1)を調査した小野正次氏と私が，原産地の早崎におとらぬ立派な大隅石(写真2)が出ることに気づきました．原田光男氏によってX線回析などによる詳しい研究でも，大隅石にまちがいないことがわかりました．ここ姶良郡隼人町の清水も旧大隅国に属します．

新鉱物，すなわち世界ではじめての鉱物種というものは，ほかの生物種にくらべてはるかに少なく，ことにそれが国際的にも一人前と認められるのは世界中のものをあわせても，1年間に50種くらいのものと言われています．

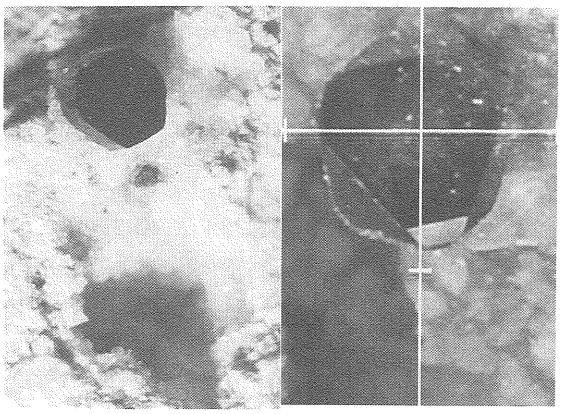

写真2　隼人町清水産の大隅石．鉱物の直径は約1.4 mm.

日本の新鉱物は，1934年吉村先生による轟石(トドロカイト)に始まり，続いて手稲石，加蘇長石，阿武隈石，河辺石および湯河原沸石と，いずれも関西より東のものばかりでした．

ですから，鹿児島県垂水市早崎で初めて見出された大隅石が西日本最初のヒットとなったことは，あたかも日本最初の人工衛星「おおすみ」が，1969年に大隅の地，内之浦から打ち上げられたことと共に，記念すべき地学的できごとと言えましょう．

鹿児島県内で，その地名が名付けられた新鉱物の産地は，両産地とも松本唯一先生が名付けられた姶良カルデラの陥没壁にあり，鹿児島県の中心部に位置します．火山国鹿児島県の象徴である桜島を中央火口丘にした世界に誇ることのできるカルデラ壁に産出する本県最初の新鉱物は，世界でも稀な珍しい鉱物として天然記念物に指定することを希望します．

(鹿児島県工業技術センター副所長　大迫陽一)